

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	文化と他者性		
英文授業科目名	Culture and Otherness		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	5, 7(6, 8)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子(学内連絡教官 佐藤 賢一)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>このセミナーは、文化人類学を受講し興味をもった学生に、その応用編として具体的な対象、テーマで関心を深め、さらに勉強していくという目的をもっている。今期の試みは、私が長年研究対象としてきたイランという国を取り上げ、一冊の本を読みながら、一つの国をまるごと理解してみようというものである。イランは、25年前にイスラム革命を成し遂げ、中東あるいは世界にイスラムの潮流を引き起こすきっかけをつくった国である。今日も、イスラムを国の根幹に置いた政治を堅持しており、アメリカからは悪の枢軸国の一つとして敵視されてきている。そういった表の顔とは別に、この国を訪れた多くの観光客がイランの人びとの寛大さ、親切さに驚きを隠さない。イスラムとかテロとかで名指しされる国の実態は何か、考えることが課題である。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>なし</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>文化人類学AもしくはB</p>
--

<p>【教科書等】</p> <p>教科書： 上网弘二編「アジア読本・イラン」(河出書房新社) 参考書： 桜井啓子「現代イラン - 神の国の変貌」(岩波新書)</p>
--

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

この授業では、教科書である本を毎回読んでいく。授業は、テキストだけに限らず、インターネット、他の本、雑誌、映画やテレビ映像などさまざまなソースを利用して情報を集め、それをクラスで紹介しながら広く議論の素材としていきたい。

(b) 授業の進め方

教科書を読み進めていくのに、毎回担当を決め、レジユメを用意してコピーを人数分用意して配布し、その回のレポーター兼先導役をしてもらう。他の学生は必ずその回の部分を読んできて、議論に参加する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

期末レポート、および出席や宿題の結果を、次のように総合評価する。

成績評価	期末レポート	80%
	出席と課題	20%

(b) 評価基準

1. 分担のレジユメと授業の担当
2. すべての提出物が受理されていること。

【オフィスアワー：授業相談】

原則として、授業の後の時間に相談に応じる。それ以外でも、適宜相談にのるが、メールや電話などで事前に連絡を入れること。

【学生へのメッセージ】

「イスラム教は戒律が厳しく、信者は掟に忠実で頑迷なだから原理主義者やテロリストになるのだ」と、皆さんは、そう簡単に考えてはいないでしょうが、それでもイスラムという、私たちには縁の遠い宗教をは不可解なものの理由づけにしがちです。

【その他】